

社会が許容するリスクとは

「利益相反する復興を考える」

「想定外」「未曾有」といわれた東日本大震災から、まもなく3年、阪神・淡路大震災からは19年となります。この間、津波・地震以外にも、かつて経験のないような大雨や竜巻が相次ぎ、凶悪化する災害に対応するため、気象用語には「記録的短時間大雨」や「特別警報」といった危険を告げる造語が次々に上積みされていくたちごっこが続いています。原発事故からの復興も「帰還」を基軸にした「福島再生策」が、ここに来て破綻、全員帰還の断念という政策転換がはかれるなど、新たな局面を迎えています。津波被災地域では、巨大な防潮堤の建設方針と自然の植生を再生させる森の防潮堤構想とがぶつかり、被曝地域では、放射能のリスクをにらみながらのコミュニティ復興か、子どもの健康を最優先させる個別復興か—の選択がせめぎあう事態です。すべての資源を「戻すこと」に収斂させる、これまでの復興施策がどうやら通用しない。復興と復興の衝突、防災と復興の衝突、これまでの災害では考えられない厳しい局面を迎えているのです。専門家の発言、判断も両極端にわかれ、被害想定は極大化する一方です。人々は何を指針に行動すればよいのか、専門家にとっては「ウィン&ノールズ（負けはなし）」、国民にとっては「ルーズ&ノーウィン（勝ちはなし）」の被害想定という皮肉混じりのコラムも登場するこのごろです。

私達は専門家や政府の判断に右往左往することなく、自らリテラシーを高め、リスクを定性的に把握し、羅針盤のない災害多発時代を生き抜いていくしかないのでしょうか。

「葛藤」がテーマだった日本災害復興学会の2013年度大会に引き続き、研究所フォーラムは「利益相反」をキーワードに東日本大震災からの復興、そして来るべき南海トラフ地震への備えを考えます。

全国被災地交流集会「円卓会議」

2014年 **1月12日(日)** 13:00~17:30

関西学院会館レセプションホール 光の間 (兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

福島の復興と広域避難者の支援について考えます。

第1部 福島の現状

第2部 広域避難者の現状

(小憩)

第3部 支援策の現状

第4部 二地域居住への考察

司 会 松田 曜子 (関西学院大学災害復興制度研究所研究員・准教授)

山中 茂樹 (関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・教授)

シンポジウム

2014年 **1月13日(月・祝)** 13:00~17:30

関西学院会館レセプションホール (兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

基調講演

佐々木 俊三 (東北学院大学副学長 地域共生推進機構機構長)

特別報告

市村 高志 (NPO法人 とみおか子ども未来ネットワーク 代表)

(小憩)

パネル討論

パネリスト 安斎 牧子 (NPO法人 Earth Angels 代表)

(五十音順) 大西 勝也 (高知県黒潮町 町長)

吉川 肇子 (慶應義塾大学 商学部 教授)

千葉 一 (東北学院大学非常勤講師 気仙沼市震災復興市民委員会委員)

司 会 山中 茂樹 (関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・教授)

申し込み方法 参加ご希望の方は、裏面の参加申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記宛に郵便、FAX又はメール(参加申し込み用紙と同じ項目を記載)にてお申し込みください。(入場無料)

※会場の都合上、12日は定員70人、13日は定員150人になり次第、締め切らせていただきます。なお、お申し込み時点で、既に受付が終了していた場合は、その旨折り返しご連絡させていただきます。参加証等は発行いたしませんので当日は直接会場までお越しください。

関西学院大学災害復興制度研究所 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

URL <http://www.fukkou.net/> TEL.0798-54-6996 FAX.0798-54-6997 E-mail: kgu_fukko2005@fukkou.net

[主催] 関西学院大学災害復興制度研究所 [共催] 日本災害復興学会 [後援] 朝日新聞社